

非正規雇用にどのような人が就いているのかについて、総務省の「就業構造基本調査」のデータを用いてみていきましょう。まず、1992年と2012年の状況について、非正規雇用比率を比較すると、時期を問わず女性は男性の約2倍程度、高くなっていますが、過去20年間の変化をみると、女性だけでなく男性も上昇していることがわかります。年齢に注目すると、92年当時、20歳代の非正規雇用

やさしい経済学

雇用を考える

増える非正規雇用

②

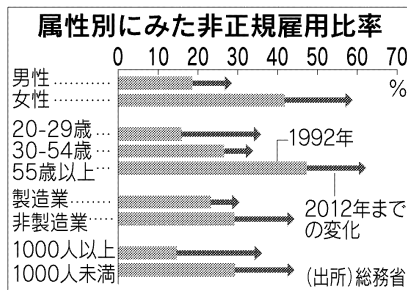
者の比率は相対的に少なかったものの、20年間で倍増しました。2012年には30〜54歳の壮年層を上回りました。また、55歳以上の年齢層の上昇も顕著になっています。業種別にみると、製造業よりも非製造業での上昇が大きいです。規模別には、もともと中小企業で非正規雇用者が多かったもの

慶応義塾大学准教授 山本 勲

の、この20年間で大企業でも著しく増加したことがみとれます。学歴別には大卒・大学院卒以外での非正規雇用の増加が特徴的といえます。12年における非正規雇用者の内訳は、パート・アルバイトが70%程度と多く、次いで契約社員が14%程度、派遣社員と嘱託がそれぞれ6%程度を占めています。雇用契約の

今や性別・規模問わず

期間別では、3年未満が大多数となっています。詳しくみると、期間の定めのある雇用



者のうち、6〜12カ月の契約期間で働いている人は全体の40%程度を占め、1〜6カ月は27%程度、1〜3年は15%程度にとどまっています。以上のことから、日本の非正規雇用は、男女や年齢、企業規模を問わず、増加していると指摘できます。特に、女性や高齢層、中小企業だけでなく、男性や若年層、大企業の雇用者についても増加が確認されることは、近年の大きな特徴といえるでしょう。